SATSUMA×WORK

さつま×しごと Vol.11

酒店×堀之内力三

堀之内（ほりのうち） 力三（りきぞう） さん（43）

宮之城屋地地区出身。高校から始めたレスリングで3年時には国体にも出場。警備会社に就職するも、平成16年に父親が急逝し家業を継ぐ。「19歳の焼酎プロジェクト」や「さつまdeまちゼミ」、松尾神社の復興に向けた取組、ラジオのMCなど、活動は多岐にわたる。

▼昭和23年創業の老舗酒屋、堀之内酒店。店内には焼酎や日本酒、ワインなどの様々な酒が整然と並んでいます。朗らかな笑顔で接客するのが3代目の店主、堀之内力三さんです。急逝した父に代わり、平成16年から家業を継ぎました。

▼堀之内さんは継いだ当時を「焼酎ブームの中、焼酎が手に入らず売れるものがありませんでした」と振り返ります。どうにかしようと飛び込んだ小牧醸造での焼酎造りの中で、表面だけでは分からない造り手や農家など関わる人の想いを学びました。「お酒一本に多くの人が関わっていることを、もっと知ってほしいと思うようになりました」と話します。それから酒に携わる多くの人と出会い、信頼関係を築いた堀之内さん。現在は多くの銘柄が並ぶ棚を「17年かけてできた仲間」と表現します。

▼堀之内酒店は「ラベルの向う側に、語りたくなる味がある。」がコンセプト。単に酒を売るだけでなく、造り手や農家の想いも伝えてきました。その方法は接客だけでなく、SNSやホームページ、堀之内酒店新聞と題した手作りのチラシとさまざま。令和3年には経営が革新的であると評価され、優良経営食料品小売店等表彰事業で日本経済新聞社賞を受賞しました。

▼現在、堀之内さんが多くの事業者などを巻き込んで取り組んでいるのが、町の地域ブランドの確立です。「農協さんが『薩摩のさつま』というコピーを打ち出したとき、とても良い言葉だなと感じました」全国に通用する一つのブランドを作りたいと言い続けた堀之内さん。その夢は、農協、商工会、観光特産品協会、役場、そして様々な事業者を巻き込み、月に一度集まってブランド化する商品を生み出そうとしています。「人前で話すのは苦手」と話す堀之内さんですが、その熱意は立場や業種を越えて伝わり、一つの大きな夢に向かって進んでいます。

毎月発行している堀之内酒店新聞。店主が書く言葉から酒の魅力が伝わります。

オンラインで教える焼酎のお湯割り講座。台湾の旅行会社に向けて説明しました。